

④5 大規模公園における新たな参画手法の検討

受賞機関 大阪府 岸和田土木事務所

<評価>

泉佐野丘陵緑地の整備にあたって、計画の段階から住民等と協働し、行政は駐車場やトイレなどの最低限度の基盤施設のみ整備し、それ以外は利用者である府民等と話し合いながら事業を進める「シナリオ型公園づくり」という新手法をとった事業。計画段階から府民、企業、学識者、行政が連携した進め方や、運営審議会を開催してPDCAに積極的に取り組んでいる点が評価された。

はじめに

泉佐野丘陵緑地は、平成26年8月にオープンした19番目となる大阪府営公園である。通常の大規模公園の整備手法となる「マスタープラン型の公園づくり」とは異なり、計画の段階から、府民、企業、学識者が同じテーブルにつき、協働で事業を進める「シナリオ型公園づくり」という新しい都市公園のつくり方、運営方法を実践している。

事業の概要・成果

「シナリオ型公園づくり」では、公園の理念や将来像の実現に向けた手法（シナリオ）を共有しながら、公園づくりに参加する各主体が集う「運営審議会」において、全ての事項を議論しながら事業を進めていく。この手法は、非常に時間と手間がかかるが、その分、各参加主体の満足度を高め、また、地域や時代のニーズに即したフレキシブルな公園づくりが可能になる。

平成27年度からは、新たな府民・企業の参画手法として、「持ち込み型プログラム」と「企業の森づくり活動」に取り組んでいる。前者は、泉佐野丘陵緑地を舞台にした、府



府民、企業、学識者、行政による公園づくり
(写真：竹林管理プログラム「タケノコ掘り」)

民へのサービス活動や棚田を活用した「花の景観づくり」について公園利用者からの提案を募り、提案者自らが実施するもので、暮らしを楽しむ～アロマ&ハーブや天然プラネタリウムなど、27年度は15件のプログラムを提供していただいた。後者は企業の社会貢献活動として、社員のみなさんが楽しみながら、森づくり活動に取り組んでいただくもので、2社95人に参加していただいた。

おわりに

これらの参画手法は、スタートを切ったばかりではあるが、運営審議会において、参加者へのアンケート調査結果など、27年度の実施状況を踏まえて検証・評価しながら、より一層の充実・拡大を図り、「新たな公共事業モデル」となれるよう事業を展開していく。

④6 沼田川工業用水道事業 尾道ライン管路更新工事

受賞機関 広島県 企業局 広島水道事務所

<評価>

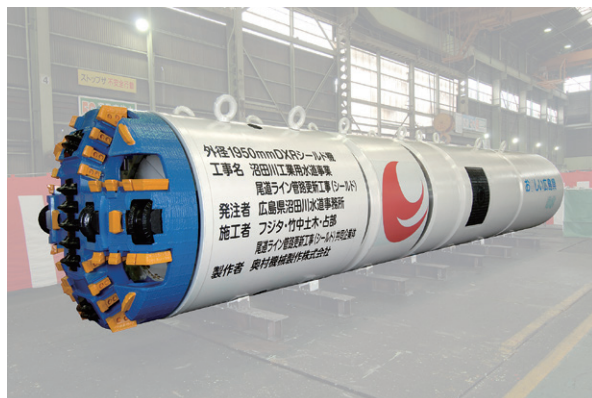
埋設後40年以上経過し、更新の優先度が高いと診断された三原市内の約2.3km（φ1,350mm）の管路更新事業。急曲線施工が可能なシールド機使用や変化に富んだ地盤に対する地盤調査、カッタービット摩耗検知装置の装備など、シールド工を進めるための工夫が評価された。

はじめに

沼田川工業用水道事業は、昭和40年度に事業着工、昭和48年4月に供用開始し、管路のほとんどは建設後40年以上が経過している。そのため、管路の老朽化に伴う漏水事故を未然に防止し、安定した水の供給を図るため、広島県では平成18年3月に「管路更新計画（第1次）」を策定し、計画的に管路更新を行っている。

事業の概要・成果

本事業は、三原市内の管路更新2.3km（φ1,350mm）のうち、既設管とは別ルートで2.0kmを非開削工法、残り0.3kmを開削工法で計画し、起終点で既設管へ接続する工事である。長距離・急曲線施工が可能な小口径シールド機と新たに規格化された持込用PN形ダクタイル鉄管を組み合わせたDXR工法を採用することで、従来のシールド工法に比べ鞘管口径を縮小し、約1.8億円のコスト縮減を図った。また施工にあたっては、変化に富んだ地盤に対応するため、追加のボーリング調査や音響トモグラフィ地盤調査等を実施し、より正確な岩盤線や岩盤強度を把握するとともに、岩盤掘進でのビット摩耗量を把握する目的で、シールド機製作段階においてカッタービットの一部に摩耗検知装置を装



外径1,950mm DXRシールド機

備した。これらの事前の各種検討や対策により、適切な位置でのビット交換や薬液注入による補助工法を実施し、変化に富んだ地盤を安全に施工することができた。

おわりに

DXR工法は全国で初めて採用した工法であり、約4年の歳月をかけ無事に完成した。本事業が同規模の管路更新工事の参考になれば幸いである。

賛助会員 (株)大広エンジニアリング、(株)フジタ